集落の話の聴き手だより

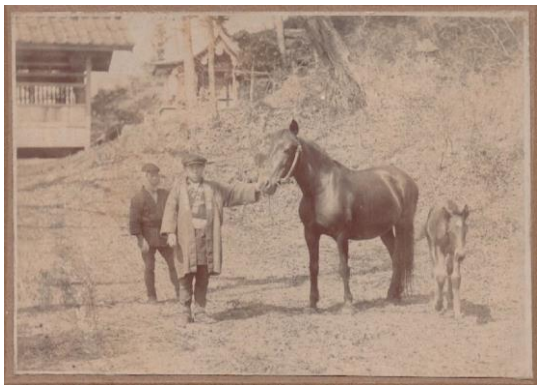
第７号
2024.1

―100年前の佐口の写真と人々―

国道１４１号『畑』の信号を曲がって上り、広域農道を過ぎると見えてくる佐口集落。見晴らしの良い場所にお住まいの小澤正博さん、マツエさんご夫妻を訪問した。

馬と暮らした佐口集落

正博さんの父の時代の写真を拝見。その一枚は、広場で馬が何頭も並んでいる写真だった。これは競馬ですか。と尋ねると「これは馬の品評会じゃねえかな。」裏には大正５年４月と書かれている。「うちの父親の頃までは、馬を飼ってた。昭和になってから牛になったよ。」と正博さん。「馬はこの頃、草競馬をやっていたし、品評会では、おらっちの家と、上のいさおくんの家とどっちが一等だったかと、今ではお互いにおらっちの家が一等だった、と言い合って笑っているだ。」と笑いながら話す。



別の一枚は、大きな馬の横にもう一頭小さな馬が写っている。「これは、仔馬が生まれた記念で撮ったんだろうな。」仔馬は綱も何もついていない。写真の背景をみると、先ほどの馬が整列している写真と同じ場所で撮られたようだ。「これらは、神社の記念に配られた写真だろう。」と正博さん。この写真も大正５年と書いてある。佐口の諏訪神社の横の広場で撮った写真で、今もその広場があるという。当時の佐口では馬を飼う家が多かったそうで、品評会があっても納得がいく。写真の馬にまたがる姿が凛々しい。

大正の大火に活躍した男衆

貴重な写真がもう一枚。佐口の古い消防団の集合写真だ。法被には“畑八消防組　消防手”と書かれている。裏には大正４年の文字。上着を脱いで座る一番右の男性が正博さんの父、正沢（しょうたく）さん。明治２７年生まれ当時２１歳の時の写真だ。
「この消防団は、*1穴原が燃えた時に消火にいった人の写真だぞ。おらっちの母ちゃんは穴原から来たからさ。親父が消防団で行って、“お前（母）の所の近所に何か焼けてたぞ”なんつって話したってよ。」と正博さん。母タカさんは、穴原の出身。穴原大火の頃は、まだ両親は結婚していなかったそうだ。「穴原の大火事っていやぁ、この辺では大変なことだった。親父たち佐口の消防団が行って、これは活躍した人たちだよなぁ。」消防車も当然なく全て手動だった当時、千曲川の西の山から川を越えて東の山まで出動し、火消しを行った男衆が、とてもたくましく思えるエピソードだった。（文責　鈴木千里）

*1　大正１０年４月５日　高岩、穴原大火　と呼ばれる大火事が発生した。

さくほ集落の話の聴き手 公式note
https://note.com/sakuhosyuraku

展覧会「佐久穂100年の記憶～古い写真を訪ね歩く～」

写真プロジェクトでは、カメラも珍しい時代の貴重なお写真とエピソードを聴かせていただき、インターネット公式noteに公開してきました。佐久穂町内の皆様に広くご覧いただけるよう、展覧会を行います。写真の現物は大変貴重なため、スキャニングして展示物にまとめます。大正～昭和、過去にそこにあった暮らしの一片から、今に続く町の息吹を少しでも感じていただけたらと思います。

期間　令和6年2月23日（金）～3月5日（火）

場所　茂来館 一般ギャラリー（図書館入口前）

高根と人の暮らし

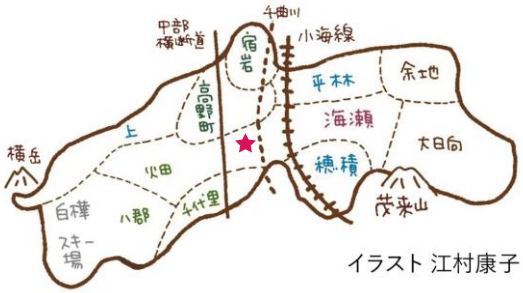


イラスト 江村康子

高根は旧佐久甲州街道沿いにあった上畑宿の一番北側に位置する集落である。道を挟んで中畑区がある。

佐々木倭文雄（しずお）さんは、生まれも育ちも高根である。家は畑八小学校のすぐ下にあったので、「始業のサイレンが鳴ってから飛んで行ったもんだ。一クラス５２名で、同級生には八郡の栄治さん、上畑の紀男さんがいた。遊びと言えば、チャンバラごっこぐらいだな。親父は国鉄の職員で、単身赴任で群馬に行ってたから、小学校６年生まで親父はいないと思ってた。」母親一人で子どもたちを育て、自家用野菜を作っていたので、その手伝いを学校から帰ってくるとしていたという。「１１月頃だと思うけんど、十日夜（とおかんや）で藁鉄砲を作って、家の周りの地面を叩いて回ったことはよく覚えてる。懐かしい。懐かしいと言えば、高根には藁ぶきの家が３，４軒あった。おらっちの家も藁ぶきだった。いつの間にか無くなっちまったな。」
定年退職後に始めた自家用野菜を作るのが日課だ。高根の集落は他の集落や町村から移り住んだ人が多いので、集落としてのまとまりは緩く、移り住みやすいという。

写真上
畑八小学校

須田鉢雄（はちお）さんは旧八千穂村役場の職員一筋で定年まで勤めた人。子どもの頃は、家の前に旧畑八村役場、畑八小・中学校、駐在所、農協の購買店、学校の給食に出すパンを作る工場、蚕を飼育する建物があり、それは賑やかな場所だった。「家が学校の近くにあるというのは良しあしです。松井や大石、うその口や八郡から通ってくる子どもたちはいつも寄り道しながら、柿やアケビをとって食べながら家に帰った話を聞くと羨ましかった。家が学校の近くにあったので、家庭訪問はなかったという。どうしてですかと尋ねると、「家の前に親がいると、担任が帰り際に世間話等のついでに、私のことをしゃべるので、家庭訪問からは外されてました。」
「農協の購買店がすぐそばにあったので、必要なものは手に入るので生活面では便利で楽だった。最近まで、近くにスーパーがあったので、近くのお年寄りの皆さんは歩いて買い物が出来て便利でしたが、その店も閉店したので、不便になったと思います。」

写真下
畑八村役場

井出廣（ひろし）さんは高根で生まれ、育った。家は畑八小学校のすぐ傍だった。当時の畑八小学校は給食があり、親たちが交代で給食を作っていた。それが珍しかったのか見学に来る人がいたという。「近くに農協の購買店があったので、夕方になると、土曳き馬を電柱に縛りつけて、一杯やっている大人がいたな。懐かしい思い出です。」
大工一筋で５０年以上現役を続けてきた。若い頃は早起き野球チームに入り、１０年間やった。「当時の村長が言っていた。『八千穂の早起き野球チームの数を人口数で割ると、その割合が高くで、日本一野球チームが多い村です。』が、口癖だった。それほど早起き野球が盛んだったな。」
「男衆も女衆もおおらかな気質を持っている。それが高根の良いところ。」　　（文責　西村寛）

こぼれ話やその他記事等は公式noteにて公開中！　佐久穂　集落　note

集落の話の聴き手だより　第７号　2024.1

発行・問合せ：佐久穂町役場　総合政策課　政策推進係
TEL.0267-86-2553　〒384-0697 長野県南佐久郡佐久穂町大字高野町569番地